

学校に花菖蒲を展示して鑑賞する試み—教育と研究、普及を兼ねて—

玉川大学・農学部・生物資源学科 植物機能開発科学領域・

園芸植物学分野・准教授 田淵俊人

「はじめに」

本学で本格的に花菖蒲を収集・維持・管理するようになってすでに三年間が経過しようとしています。歴史としては浅いかも知れませんが、それ以前の下調べの時期を含めると個人の研究期間は十年以上も経過したことになり、今では皆々様の御尽力もあって本学が花菖蒲を扱った教育・研究をしていることは、学会はじめ学内の方々は誰でも知っているほどになりました。今では相当数の栽培品種、野生のノハナシヨウブの系統を研究用として維持・管理・保全するに至りました。

「ガーデニングと認知度」

巷ではガーデニングブームで、あちらこちらで花を見かけます。花壇や鉢植えの苗などは飛ぶように売られていますし、植物に興味がなかった人でさえも、犬、猫に並んでちょっとでも植物を育てられたら、と思っている人が多いのが事実です。ストレスの多い社会ですからちよつとした癒しのブームなのでしょうが、しかし、花菖蒲をガーデニングの素材として扱う試みはほとんどなく、自分で育ててみようとする人はほとんどいないのが現状です。ある花が好

きになれば、次は「手に入れて、育ててみたい」と思うのが自然の摂理ですが、

1. 花菖蒲は伝統的であるがゆえに簡単に手に入る植物ではないこと、
 2. 栽培はむづかしそうだという固定概念があること、
 3. 一部の愛好家が栽培するので、取りかかりにくい、やや冷たいイメージがあるという固定概念などからでしょうか、なかなか栽培までは普及しないようです。もし、栽培者がいなくなってしまうたら、日本の伝統的な花菖蒲は今後、誰がどうやって末永く維持・管理していくのでしょうか？
- 一部の愛好家がこれまでに大切に丹精をこめて維持してきたからこそ、残ってきた花であることは事実です。それゆえに一般的にはなれない花であったり伝統的ということになるのかもしれませんが、しかし、今後は心を開いていかなければいけないことも事実だと思います。まだ、花菖蒲だけは鎖国状態の花、だからよかったのかもしれないませんが、今後はそればかりでは立ち行かなくなるかもしれません。

「展示してわかる花菖蒲の魅力」

これまでの講義では、鑑賞することに重点を置いていましたが、今年からは神奈川県立フラワーセンター大船植物園、国立科学博物館、および本学・学内でも展示をすることにしました。展示を通して、実際の花菖蒲に触れることでさらに興味を覚え、初めて「自分も栽培してみたい」と思った学生が多かったことも事実だったので、見るだけではなく、実際に「展示」という行為を通して、気が向けば栽培を試みる方法を今年から取り入れてみました。これはかなりの盛況であったことがわかりました。まずは、若い学生諸君には触れさせ、展示させることが重要であると考え、展示させることこそが重要であったことがわかったのです。

「学園祭に花菖蒲のポスターを展示」

つい、先日、十一月三〜四日は本学で全学的に文化祭（コスモス祭と呼んでいます）が行われ、私どもの研究室では、花菖蒲は世界に誇るべき日本古来からの伝統的な園芸植物であると考え、「花菖蒲」を中心にポスターで発表しました。昨年度、本会報に投稿した平松さんは現在本学

の大学院生として私とともに研究に励んでいます。特に、遺伝資源としての野生のノハナシヨウブの研究を行い、学会でも一目おかれており、学長先生に紹介した際にもかなり良い評価を受けたようです。

現在、卒業研究に励んでいる四年生二名（うち一名は来年、ノハナシヨウブの研究で本学大学院に進学予定）を含めて全員が、花菖蒲の元になった野生のノハナシヨウブに興味を持っているのは何とも不思議な気もしますが、彼らに言わせれば、栽培品種も素晴らしい、しかし、野生の神秘性、豪華な花菖蒲品種とは異なった、シンプルで繊細な花色、花容などは原点であるので今はこちらに完全にほれ込んでしまったようです。ちなみに本学では、全国に自生するノハナシヨウブにつき、文部科学省の許可のもと、研究用として収集許可を戴いて、産地、由来、系統、株ごとにそれぞれが絶対に混同しないようになっていきます。由来、花色・花容などが株ごとに「データベース化され、およそ一万系統、株を超えるに至っています。おそらく野生のノハナシヨウブで由来のしつかりとわかっている株の収集としては最大規模だと思えます。これには、栽培種の元になった野生のノハナシヨウブをきちんと整理して維持・管理・保存する必要性を常日頃おっしゃってくださり、暖かいアドバイスをくださる、清水弘・日本花菖蒲協会理事長の並々ならぬ理想、御尽力の賜物があります。私も大いに共鳴するところで今後益々個体数が増加することでしょう。

「花菖蒲を育てたくなるには・・・学生の花菖蒲への思いと展示の試み」

花菖蒲を育てたいという学生は非常に残念なことに、まだ少ないのが現状です。その原因の一つには認知度の低さがあるでしょう。季節になれば、マスコミで取り上げられるので花菖蒲という言葉を知らない人は少ないでしょうが、アヤメと区別がつかないのは当たり前で、カキツバタは知らない、ということはごく普通です。ガーデンングの素材になることも少なく、それは残念なことだと思います。

花が好きでなく、是非、育てたくなるような花でなければ、花の真の魅力は感じて戴けないでしょう。学生とよく議論をするのですが、「花菖蒲の魅力って何だろうね」「地味かなあ・・・若い人にはまだ無理だよ」となってしまう。そこを打破したく、「花菖蒲」三十四号、三十五号では本学の花菖蒲への取り組みを記事にして戴きました。今年も、「個人で育ててみる花にしてみたいーその可能性」を探るために、まずは学生自身に展示に参加してもらおう講義を組みました。農学部への入り口、学生や教員が一番多く通る事務室前に、事務の方々が特設ステージを設けてくださいました。あとは、ここに開花した花菖蒲を展示するだけです。

教室の列ごとに、三班に別れてもらって三つの展示が完成しました。お互い異なる学部の学生同士であるので、最初はなれない手つきで並べていましたが、そのうちに誰かがコンセプトを打ち出して動き始めるとなかなかどうして素晴らしい展示になり

ました。さらに別の班の展示を見て、どれが一番良い展示であったか、問う講義にもしてみました。

花菖蒲の展示方法には、古式ゆかりの方法に基づいたしつかりとした展示方法が存在します。二百年もの歴史の中で大学生が自由に展示をする、などといった発想はおそらくは初めてではないかと思えます。さて、どんな展示になりましたか、ご覧戴ければと思います。

「展示の効果」

展示後の感想文などを見ますと、是非、栽培してみたい、といった学生が実に八十五人中七十名いたことには驚きました。残りは下宿なので今は無理などといった現実的なものでした。つまりは展示してみれば、欲しくなるのです。さらに、先日のコスモス祭で再度アンケートをとったところ、まだ、秋になっても栽培したいといている学生は多かつたことには喜びを感じました。これは、今すぐには無理であっても必ずや、将来的には彼らのうち何名かが花菖蒲を栽培し、日本文化の伝承者となり得るかもしれません。

「学生たちによる展示「作品」」



展示1. 作品「美」

「展示1. 作品「美」」のコメント

・全体のバランスを考えました。例えば同じ色や品種が例えば列になっていたり、かたまって並んで配置されていると非常に重く我々には非常に抵抗がありますので、色鮮やかに見たいと考えました。草丈は手前は短めで奥は長めなのは当然ですが、すっきりしないと納得いかず、その点で非常に苦労しました（文学部・比較文化学科・女性）。



展示2. 作品「粹」

「展示2. 作品「粹」」のコメント

- ・ 中央部に白色を配置して、淡い色でまとめました。爽やかな色合いが気に入りました（教育学部・教育学科・女性）
- ・ 既存の伝統的な方法で配置するならば、こうはいかないでしょうが、すっきりし、かつ爽やかで同じ品種が並ばないのがいいと思います。三段構成とし、段ごとに色を変えています。これですっきり、爽やかな印象が表現されたと思います（文学部・国際言語学科・男性）



展示3. 作品「英」

「展示3. 作品「英」」のコメント

- ・ 中心に敢えて濃い花色を配置しました。その周囲を薄い花色とし、中心部を特にひき立たせたい、つまり、どこかにアクセントをおきたいという意図を第一優先としました。上の段の左右に草丈の高い品種を敢えておいて中央とのバランスをとったつもりですが、品種数が足りませんでした（文学部・国際言語学科・男性）



「ご協力戴いた農学部事務室の皆さん方」
「展示素材を栽培した学生・教員」

「毎日、開花する度にきれいな花を観賞させて戴きました。内側から見るとまた格別の美しさがありました」（一同）
花が引き立つ美しさを醸し出したのは一重に皆々様のおかげです。快く展示をお引き受け戴き、どうもありがとうございました（田淵）



左から二番目：本学同領域4年・市川祐介 大学院，四年生二名はいずれも花菖蒲を使って修士課程研究，卒業研究を行っている。三年生は，熱心に花菖蒲を栽培し見事に育てあげた功労者である。



「とにかく，開花期間が一定になるように展示する品種が偏ってしまったりしないように気を使いました」
 女性左：大学院一年・平松渚
 女性右：本学同領域三年・榎倉麻美
 前列左男性：本学同領域四年・中村泰樹
 右：著者



「展示風景」
 結構，展示する時の目が鋭く，真剣そのものでした。生き生きといたように見受けました。



「展示が終わって」
 今年は，上野の花展，大船植物園への出展と，日程的に大変でしたが学生たちは愛情を持って花菖蒲に接していました。ありがとう。来年も，ずっと続けたいですね。また，今度は学内の他の場所にも置きたいですね。